

いちじょうだにあさくらしいせき

8. 一乗谷朝倉氏遺跡

所在地：福井市安波賀町

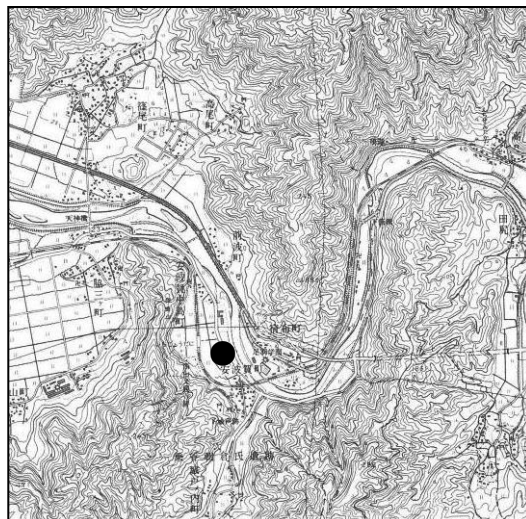
調査原因：污水管布設に伴う発掘調査

調査期間：平成 29 年 9 月 1 日～26 日

調査主体：福井市教育委員会事務局文化財保護課

調査面積：計 110 m²

時代：中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 調査地は足羽川左岸で、西山光照寺跡の東側に位置します。この地区は一乗谷朝倉氏遺跡の城下町に隣り合う商業地として推定されています。平成 2 年度の歩道工事の際には福井県により工事立会が行われ、石敷や石組等の遺構を確認しています。今回の調査でも、これに連なるような、中世の屋敷や道路に関連のある遺構の検出を期待して調査を行いました。

遺構 中世の遺構面にあたる層は、今の道路面から約 1 m 下で確認しました。

遺構としては、調査地の北端から南へ約 25m にわたり集石遺構を検出しました。この遺構は、人の拳から頭ほどの大きさの河原石で造られていることや、足羽川側へ落ち込むことから、護岸のために築かれたものではないかと考えます。造られた詳しい時期は不明ですが、中世の遺物が出土する土層を切り込んでいることから、中世以降（一乗谷朝倉氏遺跡の戦国時代を含む）と推測できます。集石の間からは中世から現代までの遺物が出土するため、現在の県道がつくられるまで、この遺構は存続していたと考えられます。

まとめ 今回の調査により、調査地では現在の県道布設前の護岸施設が残っていることが分かりました。



写真 1 集石遺構検出状況（北から）



図1 調査地位置図



写真2 調査地近景 (南から)



写真3 集石遺構 (南から)

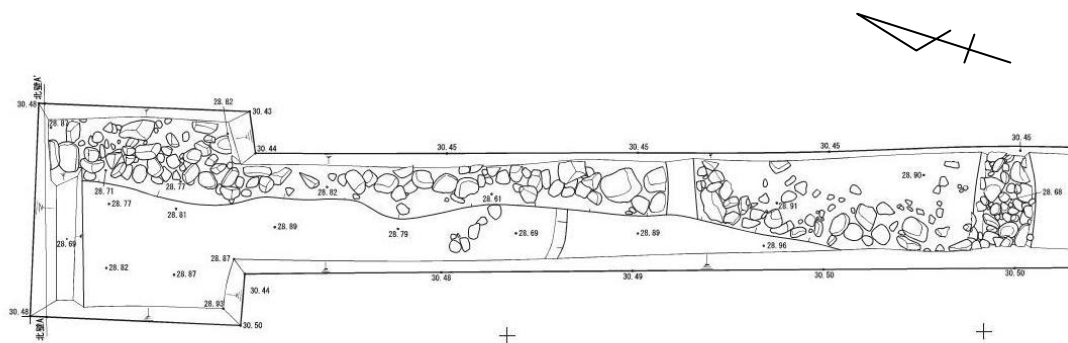


図2 集石遺構平面図 (S=1/80)